



## 今この季節になると、生徒のみなさんに伝えたい話 ある染織家が語っていた「桜染め」 一読下さい

ある染織家が語っていた話です。春の代表的な花といえば桜ですが、この桜を用いた染め物に「桜染め」というものがあるそうです。しかし、この「桜染め」は、桜の花びらから色を取り出すのではなく、桜の木の皮を煮て桜色に染めていくものだそうです。しかも、桜の花が咲く直前の木の皮で染めると、とても美しいピンク色に染まるということも学ぶことができました。

桜の木の皮の表面は、どちらかといえば、黒っぽくてごつごつしています。しかし、桜は、つぼみが咲き終わるとすぐに次のつぼみができてきて、特に寒い冬の間、このつぼみのピンク色が桜の木の中で熟成されるのだそうです。そして、木の皮の内側もピンク色になり、さらには木全体を桜色に染めながら開花の準備をしていくのだそうです。つまり、桜の木の先端に咲くあの美しい花を、幹も枝も樹液も木全体がピンク色に染めて支えているのです。

このように春を待つ桜が、美しい花を咲かせるために、木全体がピンク色に染まり開花を待っていることを知り、改めて、自然の力の凄さ・不思議さというものを感ずることができました。

また、春を待つ桜が、春の開花に向けて、寒い冬の間も休むことなく動き続けていることを知り、やはり「物事を成し遂げるには、継続して取り組むことが大切。」という思いを強くした次第でした。

さて、春の新しい生活に向けての「0学期」。春に向かって咲こうとしている皆さんは、今どんな色の花を咲かそうとしているのでしょうか。春はもうすぐです。美しい花を咲かせるためにも、「今、何に継続して取り組まないといけないのか？」ということをしっかり考えながら、卒業までの日々を、そして、残された3学期を有意義に過ごしていきたいでしょう。

春に咲く、生徒の皆さん一人一人の美しい花を楽しみにしています…。

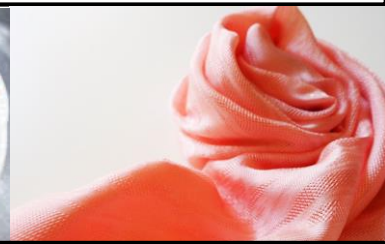
校長より



代表的な桜 ソメイヨシノ



「桜染め」に用いる桜の枝



「桜染め」で染めた織物

## ロシアによるウクライナ侵攻からもうすぐ1年 郡中にも「平和」について しっかり考えている生徒がいます ご紹介させていただきます (一部抜粋)

### 第41回大村市青少年健全育成研究大会～少年の意見発表会～ 郡中学校代表 2年 津田千颯 題名「平和」

先日、何気なくテレビを見ているとウクライナで5歳の女児死亡という言葉と共にたくさんの人が地面に横たわり、担架で次々と運ばれる映像が私の目に飛び込んできました。死傷者の数、攻撃を受けた地域が淡々と述べられる中で、「平和とは何だろう」そんな思いがこみ上げてきました。「平和とは、戦いや争いがなく、穏やかな状態」と、辞書にはあります。それが「平和」なのではないでしょうか。私には納得がいかないのです。

昨年、総合的な学習の一環として校区内の戦争の歴史を知るため、戦争遺構巡りを行いました。郡中学校の校区には、私が想像した以上に、多くの遺構がありました。85メートルもあった滑走路跡や、実際に標的にされたであろう砲台の一部など。戦争が身近にあったのだということを感じ知らされました。この遺構巡りの中で忘れられないのが、福重地区の空襲の話です。この攻撃による死者は11名。その中で、今富町の唯一の犠牲者は9歳の少年でした。当時の証言によると、アメリカ軍はかなり低空で侵入しており、地上からパイロットの顔がはっきり見えたそうです。ということは、パイロットからも地上がはっきりと見えたはず。標的とした人物が子供であることなど容易に判断できたのではないのでしょうか。このような状況の中で9歳の少年は撃ち殺されました。この事実を知った時、私の妹も同じ9歳でした。もし、その少年が妹だったら… そう考えると、恐ろしくてなりません。戦争はこんなにも無差別に人の命を奪えるのだと、改めて戦争の残酷さを痛感しました。そして、戦争が私にとって遠い過去の出来事ではなく、痛みを伴った現実のものとなりました。(中略)

日本は戦後78年目を迎えています。今の平和より一層良いものにして未来へ渡し続けていこう、その連続が確かな「平和」を形作ってきたのではないのでしょうか。日本の防衛の在り方が変わろうとする今、確かなことは、世界中の全ての人々が心から笑えるその日まで平和を問い続けなければならないということです。歴史の転換期にいる私たちができることは何でしょうか。一緒に考えていきましょう。

※津田千颯さんは、2月26日(日)大村市コミセン大会議で開催される標記の大会において意見発表を行います。応援をよろしくお願いします。

# 2023年という新しい年の中で、数々の輝かしい賞を生徒達が、そして、郡中学校が受賞しています。「チーム郡」の頑張りを紹介させていただきます。

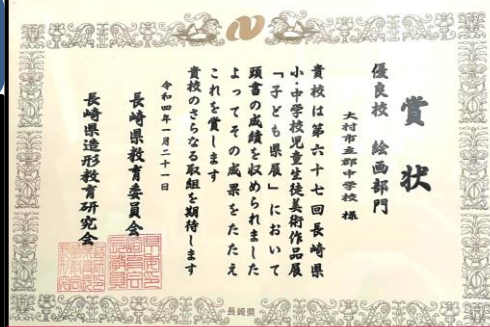
## 長崎新聞ジュニア俳壇・歌壇年間賞受賞

### 短歌

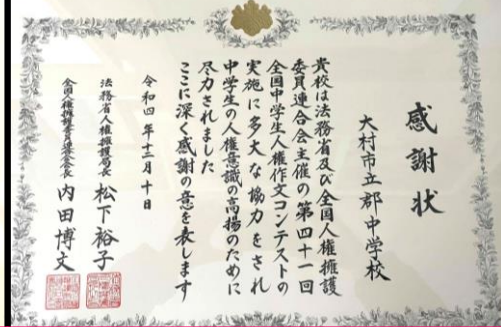
ぼくは日々ラケット握って  
バトミントン  
銃は絶対握りたくない  
1年 山田晴仁

### 俳句

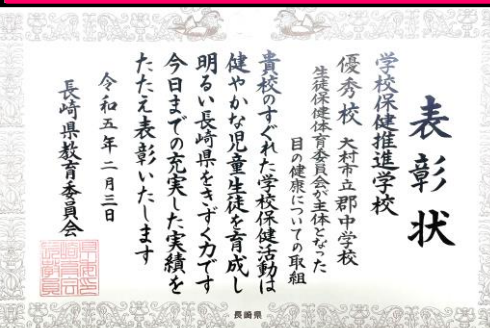
農作業土と一緒に日焼けして  
2年 松下海心



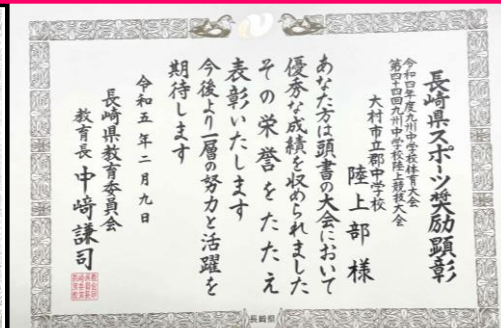
「子ども県展」優良校 絵画部門  
絵画部門において、本校の多くの生徒作品が特選・入選したことが高く評価されました。



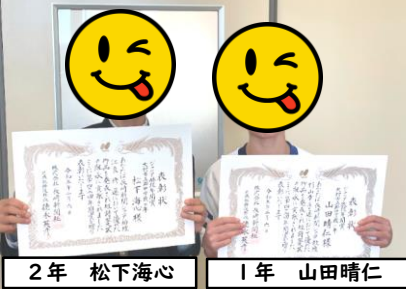
法務省及び全国人権擁護委員連合会より感謝状  
第41回全国中学生人権作文コンテストにおいて多くの作品が応募され、生徒の人権意識の高さが高く評価されました。



学校保健推進学校 優秀校  
養護教諭と保健体育委員会の生徒達が取り組んでいる主体的な学校保健活動の取組が高く評価されました。



長崎県スポーツ奨励顕彰 陸上部 (短)  
本校陸上部・短距離の夏の九州大会における共通男子4×100mリレー優勝の成績が高く評価されました。



昨年1年間に県内の中学生・高校生が長崎新聞「ジュニア俳壇・歌壇」に投稿した俳句・短歌約1400句・首の中から最優秀作品10作品の中に選ばれ、見事「42回ジュニア俳壇・歌壇年間賞」を受賞しました。



この紙面をお借りし、生徒・保護者の皆様に、生徒たち、そして、郡中学校の頑張りを紹介させていただきました。生徒達、そして、郡中学校の様々な分野における活躍が、高く評価されていることを大変嬉しく思うと共に、この喜ばしい結果を郡中の力に変え、本校教育活動の充実・発展につなげなければいけないという思いを改にしたところででした。今後とも、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。校長より



いよいよ3学期も残りわずかです。私たちの仲間や郡中学校の頑張りに刺激と力をもらい、良き締めくくりに向けて頑張っていきましょう！